

希望と愛、そして、勇気と誇り

平成23年9月4日

高橋 亨 平

人類の祖先の誕生は、30億年前に誕生したと言われているが、厳密に言えば詳細は不明であろう。しかし、その経過中に、様々なに形に姿を変え、変化しながら適応し生きてきたことは間違い無い。そして、その生き延びた遺伝子の最先端の時間を、今、我々は幸せに生きている。だから、今生きている人たちは、全て先祖が知恵を働かせ、戦いで生き残り、最先端の時間を迎えている。希望と愛、だから全ての人々が、勇気と誇りを持った人たちの子孫であり、エリートであるはずだ。氷河時代の寒さに耐え、恐竜時代には、恐竜に追い回され食べられ、石器時代の知恵、連帯、戦国時代の戦いに敗れ、滅びた家系、生き延びた家系、戦争で無念の死、原爆で途絶えた家系、心の中の善と悪との戦いに一人一人がもっと注意を払うべきであろう。パンドラの箱を開けてしまった今、我々はそれと戦うしか方法は無い。戦う議論や、講演は大いに役に立っている。しかし、日本が第2次世界大戦で名誉ある撤退の論争を、何度もしたと云われているが、行動に移せなかったのは愚かと言うしかない。衆愚政治の欠点であり今も続いている。極端な意見かも知れないが、非常事態の運命は一人の優れた善の強い人の意見で決めた方がいいのかもしれない。平和ボケした日本、お笑いとおグルメだけのテレビ、ローマの崩壊と非常に似ている。今国が滅びようとしているのに誰も何もしない。だから私はあまり知識は無いが、吉田松陰の松下村塾に、傾倒し、陽明学、行動の哲学に徹しようとしている。批判や、妬み圧力もあるが屈するつもりは無い。この戦いの中にも、良心的な官僚がいる事も分かった。薬剤が一切搬入出来なく、医療が不可能なときに、県の薬務課の一人に助けられた。「先生は問屋に普通に発注してください。自衛隊の方が運びます。」涙が出るほど嬉しかった。又、通産省の一人の方からTVを見て感動しました。困っている事はありませんかと電話があり、ストーブのオイルが無く、患者が寒くて困っているのでポリタンク5本程お願いしますとの連絡に直ぐ手配します。との返事があり嬉しい事が続いた。又、相馬ガスの取引先が津波で全滅したのであと2日でライフラインが止る、との情報にこれは大変と思い、通産省の同じ方に連絡したところ、相馬ガスの社長と連絡を取り合い、自衛隊と思うが直ぐに運んでくれ解決できた。また72時間しか入院させてはいけないという医療規制では、南相馬市の病院には1200あったベットも2病院に5ベットずつしか運用許可が下りなく、医療機関は機能麻痺とな

った件も、すこし荒っぽい方法ではあったが、マスコミに依頼し、県の地域医療課から要求した230床という満額の回答を得る事が出来た。またホールボディカウンターに関しては情報集めを駆使し大野の環境医学センターに3台あることが分かった。そして又、全国に109台あることも分かり、1台も機能していない事も分かった。大熊町にある環境医学センターのホールボディカウンターを、南相馬市立病院に運ぶよう依頼したが、何も進まなかった。それどころか様々な所から圧力がかかり、困難を極め、時間もかかった。学問の世界にも利権とシンジケートが絡んでいる事も分かり、愚かな国だとしみじみ思った。一方、鎌田実先生のグループ JCF は南相馬市立病院に医療機材や人材を直ぐに派遣し応援に駆けつけた。その中で担当の神谷さんが私に面会をしたいと来院した。チェルノブイリの話の中で、集落や丸めのデータでは、世界スタンダードは出ない、個々にしっかりと計るべきだと言う、私の意見に賛同してくれ、フィルムバッジが適当と判断し、直ちに私の名前で千代田テクノに依頼文を書き5月から実行した。5月は途中から行なったので被曝線量に幅があったが、6月からのデータはしっかりと反映され正確なデータが得られた。個人の行動、生活の場所、家の構造、ホットスポットの場所、汚染の強い車の使用、等等多くのことが分かった。そこで毎週、日曜日に妊婦、及び子供の家を訪問し、測量しながら家の中で一番線量の低い場所を探し、生活の指導、を始め、それなりの効果を上げることが出来た。しかし、どうしても下がらない人が3-4人いた。そこで除染を考えていたところ、千葉県亀田総合病院の産婦人科部長の鈴木真先生がドクターをもう一人連れて洗浄器を車に積んで来るという連絡があった。東大の坪倉先生も3人のドクターを連れてくると言う返事があった。しかし、聴診器しか持ったことの無い、このメンバーでは不可能と思い、地元の NPO グループに声をかけた。あっという間にメンバーが20名以上集まった。測量はチェルノブイリで経験の深いサードウエーブ社に依頼、快く引き受けてくれた。皆も一緒に学びながら、経験と知識もある仲間も居り直ぐに覚えた素晴らしい仲間もいた。私は、その様な中で、これは世界が経験したことが無い明らかな学問であり、サイエンスであるという事を説いた。失敗しても、成功しても、しっかりしたデータを残すとの大切さを記録に残し、後世に伝える事こそ大切であると主張し、除染線研究会への発足へと繋がった。そして、この経験が、よつば幼稚園の大成功へと繋がった。入念な測量プロが測量し、指揮官となって現場で指示する。除染終了後も入念に検証し、悪い部分があればその部分を必ず、やり直しをする。必ず反省会をする。そうする事によって、次々と新しいアイデアがわいてくる。途方も無いものもあるが、楽しい。

希望と愛、これが全南相馬市民の願いだ。希望は妊婦と子供がすべてである。そこで、今、私がどうしてもやりたい次の事は、除染の出来ないアパート住まいの方が残っており、転居を進めるも1件も空いている家は無い。又、帰ってきたくとも住まいの無い人、妊婦、子供達の救済だ。しかし、アパートも1件も無く、住む所が全く無いのである。安全であるところもデータでハッキリし、除染が進んでも、住む所が無い人がたくさんいる。空間線量が限りなくゼロに近い家を作れる理論も分かったし、周辺の整備も分かった。そこで、妊婦と子供達が住める家を5-6軒のマンションをつくり、十分に安全だというシンボルになる住居を作り、希望の家を作りたい。これがきっかけとなり次々と出来ていく事に期待したい。こんな私の願いが叶えるとは思えないが、全国の善意ある人達の手で叶えられれば、又、勇気がわくし、次の難問に直ぐに取り掛かれると思っている。希望は南相馬市民と原発被害を受けた町村の人々のため、愛は全国民への願いである。存亡のかかっている日本、善の行動の哲学、全国民に知っていただきたい。